UIFA JAPON NEWSLETTER

No. 99 Dec. 26, 2014

Union Internationale des Femmes Architectes Japon　国際女性建築家会議　日本支部

■主な内容

●第 61 回海外交流の会　参加記
「人間と大都市―ヴァージニア工科大学の教育を原点として―」
●特集：「会員の活動と作品の紹介 2 ―地域で職場で―」
・「小谷部育子・材木座で『座やまのべ』を開く」
・温故知新・時流心穏
・地元では・た・ら・く
・寺本晰子さんを偲ぶ
●被災地通信（10）
●「この指とまれ」報告
●全国まちづくり会議 2014 in 北上

9 月 7 日（日）東京都の慰霊堂のある横網町公園で第二回首都防災ウイークのイベントとして、どこでもカフェ「BOUSAI 茶会」を行った。冷たいお抹茶と和菓子という謳い文句で水点て作法に通じた板東みさ子会員がお茶の先輩と和服姿で参加し、お茶会の雰囲気を盛り上げた。雨も次第に上がり、テントでのお茶会は心地よい雰囲気で和やかな交流の輪が広がった。
（写真：渡邉）

第 61 回海外交流の会　「人間と大都市－ヴァージニア工科大学の教育を原点として－」参加記　橋本　ゆかり
61st Intercultural Lecture：Approaches to Urbanism at Virginia Tech　HASHIMOTO Yukari

講師の稲冨昭氏(右)とインタビュアーの谷村さん(左)（写真：渡邉）

大久保駅に降り立つと線路の向こう側に大きな三角の窓を持つ建物が目を引く。屋根の形状は上空から見れば十字ではと想像に駆られる。

11 月 15 日淀橋教会で第 61 回海外交流の会が開催された。この教会がホームから見えた建物である。今回はこの教会を設計された稲冨昭氏をお招きして、UIFA 会員の谷村留都さんのインタビュー形式で講演が行われた。先に館内見学、その後講演、懇親会の運びとなった。

ガラスが多用され光溢れる館内。礼拝堂は幾何学模様の白壁が弧を描き天井へと続くその高さ 22 メートル。天井中央部には十字架の型のガラス窓。その延長線上に光のバトンを繋ぐ様に四隅に三角の大きなガラス窓。ここには祈りの場に有りがちな張り詰めた空気感が無く、優しく包まれた温もりを感じる。それは麻布が張られた障子や拭き漆で仕上げた欄干など各所に日本建築の技が光るからか。

この礼拝堂で稲冨氏は静かに記憶のページを捲り語られた。ヴォーリズの元で仕事をなさっておられた氏は、ヴォーリズ没後建築の勉強をやり直したい強い想いで渡米。グロピウスに出会い、ヴァージニア工科大、MIT、ハーバード大大学院を経て TAC（The Architects Collaborative）に協同し帰国。

この TAC は、グロピウスの考えに賛同した優秀な者数十名が、彼の考えを実践する弟子達として活動していた。グロピウスを含めたリーダー達がパートナー会議を開き、活発な議論を行い様々なプロジェクトを企画、立案。その仕事の幅は建築のみに留まらず生活用品など多岐に亘った。

そしてこれら全てはヴァージニア工科大の教育の基礎となっている。

人は物を作りながら物事を考えるタイプと抽象的に物事を考えるタイプがいる。建築家は前者と言えよう。そう言う意味では建築家に天才はいないと稲冨氏は語る。　建築は言葉である。多くの案を出し、互いを批評しその言葉に耳を傾ける。幾度となくその作業を繰り返し、言葉を磨き積み上げて形を造っていく。それは俳句をつくる事と似ている。語るべき豊かな内容を持っていないと良い物は出来ない。

講演会終了時天井を見上げた。頭上の十字架は光の入射角の変化で淡い白色の単色から青白い光とクリーム色の光の 2 本の十字架に変わっていた。

光溢れる礼拝堂内部
（写真：渡邉）

UIFA JAPON NEWSLETTER 100 号編集に向けてのお願い　－会員活動特集号です

会員の皆様、2015 年度早々にユイファ・ジャポンのニューズレターも 100 号を迎えます。また、2015 年夏には、アメリカのバージニア工科大学を中心に、第 18 回 UIFA 世界大会が開催される予定です。

そこで、ニューズレター編集委員会では、会員の皆様のお仕事や近況などを集め、また英文併記とする特別号を編集したいと考えています。是非とも会員の皆様に一言ずつのメッセージを、下記の内容と日程でお寄せいただけますよう、お願いいたします。

○日本語：300 字以内＋英語：100words 程度＋写真 1 枚（写真は 1MB 程度、ワード等に貼付けないでお送り下さい）
○内容：自身の取り組みについて、現在、過去、未来いずれでも可
○原稿日程：2015 年 2 月 27 日（金）までに、ユイファ・ジャポン事務局へ郵送、
あるいは 100 号編集担当 渡邉（w-kiyomi@jca.apc.org）又は宮本（miyamoto@iot.ac.jp）宛にメール送信

「小谷部育子・材木座で『座やまのべ』を開く」
KOYABE Ikuko Lecture on Za Yamanobe in Kamakura

2014/6/14鎌倉森邸にて　（写真：渡邉）

惜別：「闘病中の９月16日小谷部より下記原稿を監修したことのお返事メール『渡邉さん　ありがとうございます。渡邉さんの原稿を読んで、改めて自分の遣っていることの重要さを再認識しました』」だが・・10月５日千の風にのる。さようなら小谷部。また天国で続きの議論をしたいものだ。
報告：「座やまのべ」はこれからも地域に開かれ続ける。
（渡邉 喜代美）

地域に開く談話室活動で深まる・繋がる

鎌倉の材木座に居を移した小谷部育子とパートナー山崎一眞は、築80年の和風木造住宅を私的に住まうと同時に、その一部を開き「座やまのべ」として2013・9月から談話室活動を続けている。開放されているのは一階の二間続きの和室や前庭などで、丁寧に修復された建具や床の間、座敷は静粛の中にあって、開かれている居心地のよさが感じられる。「座やまのべ」は、2013年９月「秋の茶話会」を初め、10月「皇国地誌に見る材木座の姿とカタチ」11月「平家琵琶を聴く」2014年１月「写真で語る材木座のまちとくらし」２月「材木座の女性たち」３月「材木座の別荘地時代」４月「春の茶話会」５月「材木座のマリンスポーツ事情」６月「守りたい・育てたい鎌倉の風景～材木座から考える」７月「材木座のまち育て活動　その１」そして、11回目の2014年９月「市担当者と語り合う材木座の風景」と魅力的な題材で満１年。語り部は、材木座在住の市民を中心に、主に材木座をフィールドにして活動や創作活動に関わる幅広い分野の方である。テーマが茶話会、平家琵琶など室内での文化的、美的経験に関するもの、歴史と微地形が織りなす風景に関するものに収斂しつつあるという。

社団「鎌倉・湘南景観フォーラム」を設立

共に研究者、大学教員として活動してきた２人は、１年間の「座やまのべ」活動で見えてきたものはコミュニティ景観の重要性だとして、2014年６月、一般社団法人「鎌倉・湘南景観フォーラム」の設立を果たした。社団が目指すものは、美しい自然環境と歴史的遺産を持つ鎌倉・湘南の景観と生活環境を住民自ら考え、活かし、守り育て、慈しみ、未来に向け働きかけていく仕組みづくりと実践を目的とし、それに資する事業を行うとしている。具体的には１．歴史的建造物「座やまのべ」の維持・活用に係る事業　２．コミュニティ景観の維持・向上に向けた人とひと、家とまちを繋ぐ事業　３．コミュニティ景観の維持・向上に向けた研究啓発に係る事業などである。

談話室活動からフォーラム設立へ、果敢な挑戦に敬意を表しつつ、材木座という一地域の「座やまのべ」発信が、各地に、世界に、広がり影響を与え、コミュニティ景観の重要性が、議論が、研究が深まること、そして、それぞれの地域での実践を希求する。

闘病中、「座やまのべ」に開いた自邸のエントランスにて2014/6/14（写真：渡邉）
（左手に回ると開放されている中庭。改修以前はブロック塀で覆われていた。）

（この原稿は“共に住む”住まいづくり・まちづくりの活動をALCC、NPOCHCなどで協働してきた小谷部育子と、パートナー山崎一眞からの資料提供によって渡邉喜代美が取材作成、両人に監修いただいたものである。本来、小谷部が書く予定だった。「座やまのべ」に刺激された渡邉は地元南青山でもフォーラムを開きたいとひそかに思う。）

温故知新・時流心穏　　川口　亜稀子
Rediscovering Lessons from the Past　KAWAGUCHI Akiko

「日本古来の生活を現代に生かし時間を経る毎に、心が穏やかに満たされる住まい」。事務所を開設して19年目になりますが、独立当初からの住まいの設計コンセプトは今でも変わらない軸となっています。

ここ最近は、原子力廃棄物最終処分場の研究施設や、東日本大震災の被災地を訪問して現状を見聞するなどエネルギー問題を考える機会が増えており、倍々ゲームの様な勢いで50年前より６倍近いエネルギー消費している現状を憂い危機感が高まります。この当たり前にある電気は将来の生活では当たり前ではないと実感。

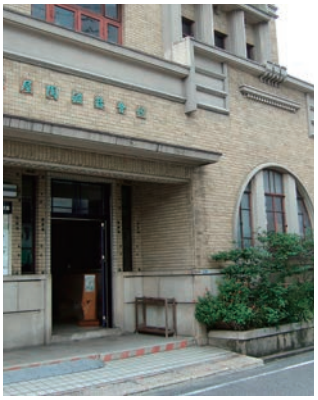
少しでもこれからの住まいづくりで消費を縮小できないものかと思案するとやはり、昔の生活を見直して太陽の恵みを積極的に取り入れることをこれからの住まいづくりに生かしたいと考えています。

省エネ住宅を設備や断熱材に頼るだけでなく、季節や用途で可変するプランニングで朝の光を積極的に取り込み、階段などの移動を楽しくすることで適度に運動出来るなど考慮して、日本の風土に合った暮らしで自らの力を引き出す自然治癒力が高まる住まいを提案できればと考えています。

自然の風とトップライトの光が室内全体に行き渡る。身体を楽しく動かし、心が満たされる場所をつくり、空気が滞らない住まいが人の健康につながり、自然治癒力を高める。そんなことを考え心がけています。

住宅設計と合わせて、古く良き建物を残し活用に導く担い手としての仕事をこれからの主軸にしたいと考えています。

私の事務所のある「名古屋陶磁器会館」は昭和初期の建物で、陶器の輸出業が繁栄時に組合事務所として建てられ登録有形文化財に指定されています。長年使い込んだ風合いと当時だからこそ出来た技術に囲まれ、使い込むほどに愛着が増し、良き建物を保存活用する動きに関心が高まっています。


名古屋陶磁器会館（登録有形文化財）

名古屋陶磁器会館もテナント貸しをすることで人の行き来が増え、陶磁器の展示室を整備し昔の絵付けを伝承するイベントを増やしたりと会館の良さを知ってもらう機会を増やし、地域の関心も広まり活気づいています。その過程を知る者として、建物保存と活用を今後の活動として生かしたいと考えています。

地元では・た・ら・く　福井　綾子
Working in My Area　FUKUI Ayako

私は、いろいろのグループ、神奈川県建築士事務所協会川崎支部、神奈川県建築士会川崎支部、NPO かわさき住環境ネットワーク、女性建築技術者の会に参加しています。

平成 17 年からはじまった制度で、川崎市の市民が無料で耐震診断を受けることができる木造住宅耐震診断士派遣制度による「木造住宅耐震診断士」に登録しています。

耐震補強工事には費用が掛かることに対し、川崎市ではその費用のうち最大 200 万円の助成金を受けることが可能です。診断した建物を精密診断、補強計画の作成、工事監理等を診断士として業務委託を受け年間 2 から 4 件位を担当しました。現在は工事監理終了後に工事中の写真のまとめと竣工後の図面作成、計算書等の報告書の作成に追われています。

神奈川県建築士事務所協会においては「会員設計事務所への苦情相談業務」という電話相談、面談相談等にも数ヶ月ごとに交代で参加しています。工事のトラブルや設計の進め方等一般市民の相談も少なくありません。

相談は NPO かわさき住環境ネットワークにおいても、川崎市内の南部北部の 2 箇所での相談窓口コーナーを運営しています。設計、施工、近隣との問題の相談を受け、一回だけ無料の現地相談もあります。

月一回の定例会の場で相談内容について討論し情報を共有し、メンバーの力量アップに努めています。こちらは 10 周年目です。

女性建築技術者の会は 1976 年発足し、事務局を持っています。

年に 10 回ほどの定例会を企画運営し、勉強会や交流会が盛んです。会報の名前は「定木」（じょうぎ）。各グループによって、編集、発送などの運営も工夫しながら行っています。

10 年目には「よくばり協奏曲」20 年目には「よくばり協奏曲第 2 楽章」を発行し 30 年目には「アルバムの家」を三省堂から発行しました。2016 年は 40 年目の節目にあたります。かかえる問題の共通性、会員同士でできることをできる会員が支えあってきたところが強みです。

女性建築技術者の会では 10 年の節目ごとに本を発行してきた

寺本晰子さんを偲ぶ　宮本　伸子編
Remembering TERAMOTO Sekiko edited by MIYAMOTO Nobuko

去る 2014 年 8 月 21 日に、寺本晰子さんが他界されました。ご病気と伺っていましたが、会員の活動として執筆していただく機会を逃してしまったので、何人かの会員のリレー思い出トークで寺本さんの多様な足跡の一部を偲びたいと思います。（宮本伸子）

●出会いは、芦花前住宅団地。大学の級友を通じて知り合い、仕事の時は乳飲み子を預かったりもしました。ランチの誘いに少し遅れたらパスタは冷蔵庫の中、食にこだわるイタリアでの生活経験者だから？と妙に納得したものです。今思うと、仕事と子育て等の生き方が、work・life・balance を実践していたかのようでした。（小池和子）

●法政大学大江宏ゼミ出身のご縁で、建築系卒業生の女性グループを立ち上げたり、東京建築士会女性委員会では、UIFA の日本大会で発表するパネルを深夜までかかって作りました。鳥取大会の折「投げ入れ堂」に、悪天のなか、草鞋履きで岩山を這うように登り、見事な佇まいに息をのみ、宿願成就の喜びを語り合ったことも忘れられない思い出です。（石川彌榮子）

●日本建築家協会（JIA）で私が印象深いのは JIA 中野クラブ（地域会）での活動でした。今は亡き中村陽子さんを含め私の所属する杉並地域会と中野の共催で中央線沿線シンポジウムを開いたときにも温かく応援して下さいました。（寺尾信子）

●中越地震後の災害復興見守りチームで、長岡市法末において、住宅相談だけにとどまらず稲作から景観づくりまで週末に泊まりがけで行う活動は、ハードな中で同士のような関係になったと思います。間取りや柱の傾斜の実測を行い、世帯ごとに整理してメンテナンスノートとして配布する活動の中で、寺本さんは危ないと判断した家には断固危ないと言い対処法の提案を行うなど、建築士としての責任感の強い方でした。（安武敦子）

● 2005 年の冬、美々卯でうどんすきをつつきながら、「あなたを UIFA　JAPON 震災復興見守りチームにスカウトします」といわれました。それが UIFA に入るきっかけでした。いろいろな事を厳しく教えてくれ、寺本さんに出会わなかった場合の人生は、もはや想像がつきません。寺本さんのこと、決して忘れない。（森田美紀）

法末のブナ林の中で笑顔の寺本さん（右）2007 年 4 月（写真：宮本）

No. 99 Dec. 26, 2014

Union Internationale des Femmes Architectes Japon

UIFA JAPON 事務局
〒 102-0083
東京都千代田区麹町 2-5-4
第 2 押田ビル ㈱生活構造研究所内
Phone: 03-5275-7861 Fax: 03-5275-7866
E-mail: uifa@LIQL.CO.JP
URL: http://uifa-japon.com
発行 2014 年 12 月 26 日

THE SECRETARIAT OF UIFA JAPON
c/o LABORATORY FOR INNOVATORS
OF QUARITY OF LIFE
DAINI-OSHIDA BLDG.
2-5-4, KOUJIMACHI,CHIYODA-KU
TOKYO, JAPAN 〒102-0083
PHONE :+81-3-5275-7861
FAX :+81-3-5275-7866
URL :http://uifa-japon.com

被災地通信（10）
Report from the Desaster Area (10):

頑張る被災地、だが実情は。 岩井 紘子
The Reality of Tohoku Reconstruction IWAI Hiroko

去る 8 月 30 日の郡山惠向公園団地「どこカフェ」での一コマ。団地内を歩いている時、3 人の老熟年男性が日向ぼっこして語らっている中に入って聞くと、「どうやったら死ねるンだろう、毎日そんな事ばかり考えているのだ」という。「そうだよね、けど世のなか絶対変わるからそれまで何とか生きててヨ」と答えたのが未だ脳裏を離れない。

8 万人も減った福島県人口。第 1 原発と第 2 原発のある 7 町村民は全員避難させられ、部分的避難解除されつつある現段階でも県内外に未だ約 12 万人もの方が避難されている。災害公営住宅への転居状況を見ると、建設計画は、宮城は 1.6 万戸、福島 8 千戸弱、岩手 6 千戸の計 3 万戸とあるが、入札不調や用地取得困難等で、未だ完成は 1 割の 3 千戸弱、建設中は 1 万戸余という実態である。所得に応じた減免措置はあるものの市営住宅並みの賃料で、3K20 坪前後 3 ～ 6,5 万円とか。待ちに待った公営住宅と云えど賃貸未経験者、地の利、職場等とこれまで 50 ～ 70 坪前後の戸建てに住んでいた被災住民は、入居に躊躇している。

自立再建戸建住宅ですら 40 坪前後の住宅。高断熱、バリアフリー、エコハウスを謳い文句に資材、職人不足を盾に坪 70 万円を並みとする住宅業界。そんな中、宮城県内設計事務所工務店でつくる県地域型復興推進協議会は土蔵を参考とした「蔵工法」と称す新しい工法で工期短縮、高強度の住宅を開発した。外周壁の筋交いや胴ぶちの作業手間を省き 500 ピッチの地域材柱＋下地構造用合板耐力で高強度化したもので、食洗機、IH キッチン、エコキュートという高設備にカーテン、照明、設計料込の延 35 坪税込 1650 万円という質の高い、安価な住宅である。自分も地元業者の復興支援の心意気に共鳴、普及に努めたいと思っている。

「蔵工法」の内部 500 ピッチで地元材柱が並ぶ

この指とまれ「加地邸をひらく - 継承をめざして -」
薄井 温子
Please Join Us in Efforts to Save Kachi Villa USUI Haruko

今年度より理事会が 2 ヶ月に 1 回になった。それを機に建築などの見学会を開こうと、各理事が持ち回りで「この指とまれ」を企画担当することになった。第 1 回は広報の私が担当になり、事業の正宗さん・岸本さんの協力を得て加地邸見学を行った。

この建物は 10・11 月に毎週末だけ特別公開中で、11 月 1 日（土）、他の見学者がいる中で、UIFA 向けに井上祐一先生の解説をお願いした。既に見られた方もおり、参加者は 10 名だったが井上先生の丁寧なお話にとても満足した。雨天で混んでいなかったことも幸いし、じっくり見ることができた。中庭の喫茶コーナーで建物やその将来について話が弾んだのも楽しかった。

加地邸パンフレット

全国まちづくり会議 2014 in 北上に出展 北本 美江子
Exhibition at JSURP Conference in Kitakami KITAMOTO Mieko

NPO 日本都市計画家協会が毎年開催する「全国まちづくり会議 2014 in 北上」は 9 月最終週末、27、28 日に岩手県北上市さくらホールで行われた。今回が 10 回目となるが、開催地は首都圏と地方が半々、東日本大震災後は神戸、長岡、北上と地方開催が続いてきた。この会議は協会が専門家集団として、草の根まちづくりを支援するのを目的として始まったが、逆に専門家のあり方を問い、示す場ともなっているのだと思う。

UIFA JAPON は建築家を主とする集まりだが、私は建築の基盤となるまちの構造寄りに関心があるので、これまでの被災地支援活動パネルと共に、自治体ごとの復興計画に注目した表やグラフを展示した。今号に挟み込んだ A3 の紙にパネル内容が印刷されている。ネット上には膨大な情報が公開されているが、被災や復興の状況は全体像が見えにくいと感じたのが、資料作成の動機だった。

会議中でパネルの説明をした車座交流会では、アメリカでもハリケーン被害の際、女性建築家の支援活動があったが、女性ならではの面はあるかとの質問を受けた。

岩手県北上市さくらホール内部の展示会場

■役員会報告

2014 年度第 4 回 9 月 25 日 会議に先立ち平野正秀賛助会員から伊豆大島の報告および大島での「お抹茶カフェ」要請。岩泉町「だれでもフォトグラファー」報告 「郡山どこでもカフェ」、墨田区横網町「防災カフェ」、第 1 回岩泉自主カフェ報告 第 61 回海外交流の会準備開始 この指とまれ企画変更 NL98 号 8/25 に発刊・NL99 号編集報告

第 5 回 11 月 14 日 この指とまれ「葉山・加地邸見学会」報告 伊豆大島どこでもカフェ開催報告 IAWA アドバイザー会議に松川淳子出席報告 第 61 回海外交流の会準備・第 62 回企画 入会案内挟込み書更新 NL100 記念号企画説明 NL99 号編集報告

■編集後記

東欧・中欧の木の住まいを見巡り、日本の行く末に思いを馳せる年の暮れです（井出）。 あっという間に一年が過ぎていきますと昨年も同じ一言（薄井） 最近あちこちの点がつながりはじめて、思わぬ方向に展開してゆく。面白い（須永） NEWSLETTER は、編集長と 10 人余りの委員の連携プレーで、夏の終わりの「企画案」が、クリスマスに「結実」。（御船） 99 号が年末に出るといよいよ 100 号始動だ。頑張ります。（宮本） 友たちが千の風にのって行くのを見送りつつ、はてさて老少は志に生きようか（渡邉） 気がつけばまた冬空の下、ドタバタと走るだけで終わってないか？答えるのが怖いかも（神村） 来年は甥が年男。あの赤ん坊が 12 歳！歳月の早さに驚くばかりです。（石川）

UIFA JAPON（国際女性建築家会議　日本支部）と自然災害被災地への支援活動

UIFA JAPON は、UIFA の日本支部として、世界の女性建築家たちと連繋しながら、よりよい都市・建築の創造にむけて活動しようと、1992 年に設立された女性建築家を中心として構成された団体です。

2004 年の中越地震を契機に、その中に「災害見守りチームを設置し、以来長岡市小国町法末で支援活動を継続してきました。

東日本大震災ではその経験を活かし、岩手県岩泉町、福島県郡山市、福島県新地町などで、いろいろな支援の形を模索しながら、UIFA JAPON 全体として支援に携わっています。

支援活動の中では、

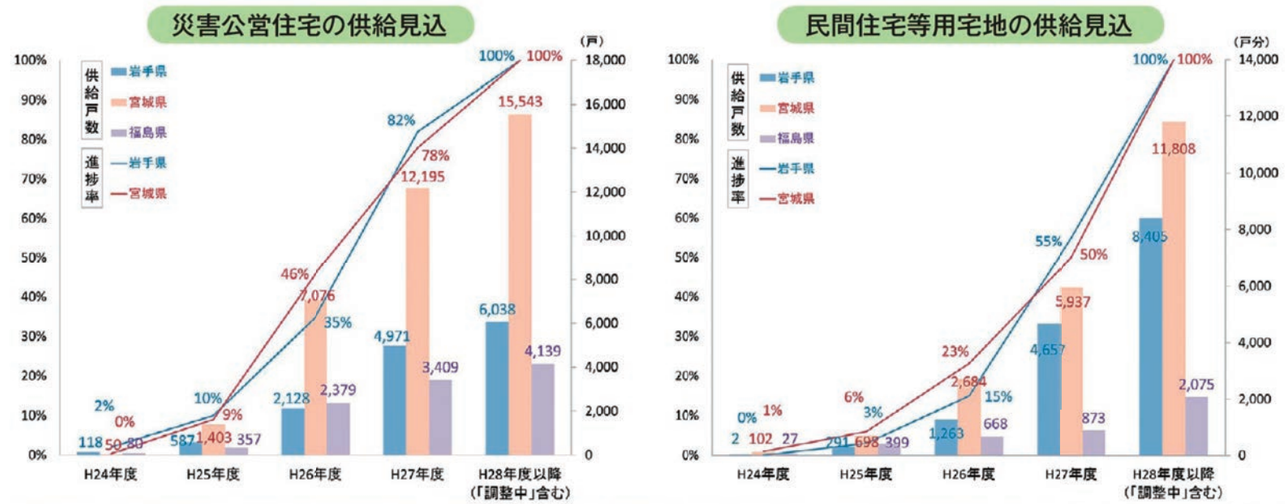
（1）被災者にできるだけ寄り添うこと
（2）継続性を大切にすること
（3）被災者自らの活動につなげること

を大切にしてきました。

全国まちづくり会議 in 北上に際して、東日本大震災の復興状況を振り返り、一覧できるようにまとめるとともに、2013 年モンゴルで開催された UIFA 世界大会において発表した「UIFA JAPON の被災地支援活動」のパネルを掲示するものです。

UIFA JAPON：〒 102-0083 千代田区麹町 2-5-4 第二押田ビル（株）生活構造研究所内
電話：03-5275-7861、e-mail：uifa@liql.co.jp　URL:http://uifa-japon.com

災害公営住宅、民間住宅等用宅地の供給見込時期・累計（平成25年12月末時点）

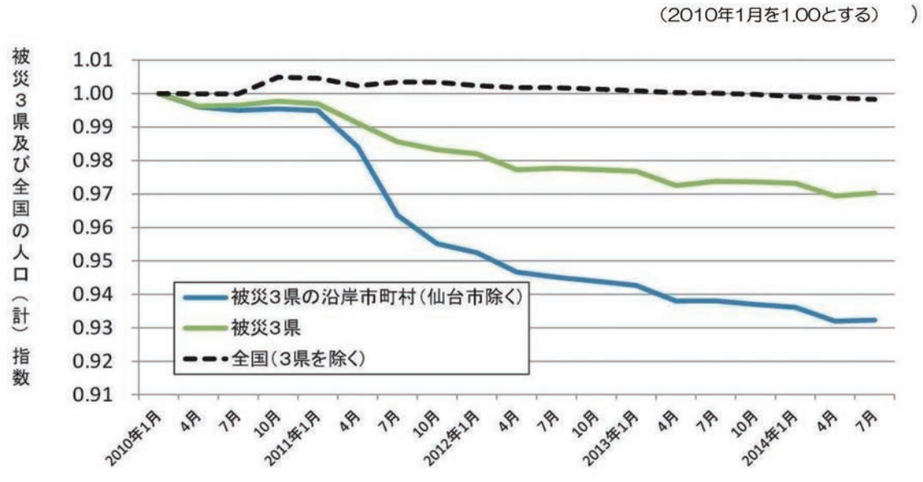


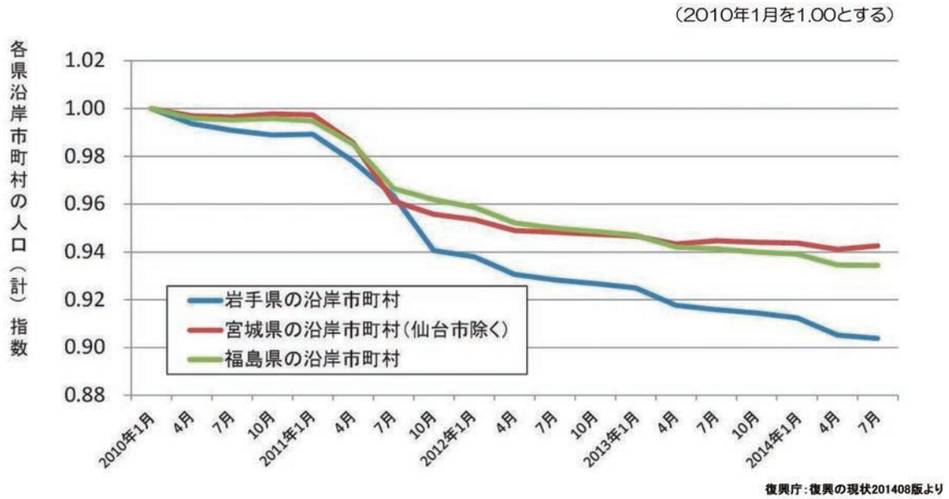
※福島県における原発避難者向け災害公営住宅の整備戸数は、整備中の1,455戸（上記戸数に含まれている）を含み、全体で4,890戸を予定しており、うち3,700戸は平成27年度までの入居を、1,190戸は平成27年度以降早期の入居を目指している（平成25年12月時点）。
※平成24年度の供給戸数は実績値。平成25年度以降の供給戸数は見込。
※「調整中」は、用地交渉中や整備計画の策定中など現段階では供給時期が確定していないもの。
※「供給見込時期」は、災害公営住宅の場合は建物の引き渡し見込時期、民間住宅等用宅地の場合は宅地造成工事の完了見込時期。
※「民間住宅等用宅地」は、地方公共団体が土地区画整理事業、防災集団移転促進事業及び漁業集落防災機能強化事業により供給する住宅用の宅地数を計上。
※上記の数値は平成25年12月末現在で各県が市町村から提出を受けたデータをもとに集計・整理したもの。
最新版は復興庁ホームページに掲載（http://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat1/sub-cat1-12/20130730105832.html）

復興庁：復興状況パンフレット201403版より

人口推移（被災3県の沿岸市町村）

沿岸市町村の人口推移は、減少傾向にあるものの、2012年4月以降、減少の度合いが鈍化している。





復興庁：復興の現状201408版より

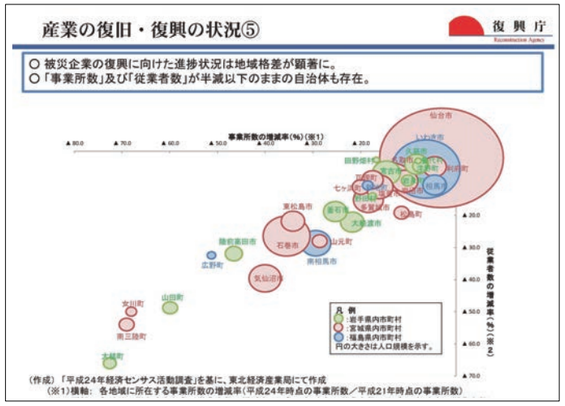
東日本大震災・復興の今を見る

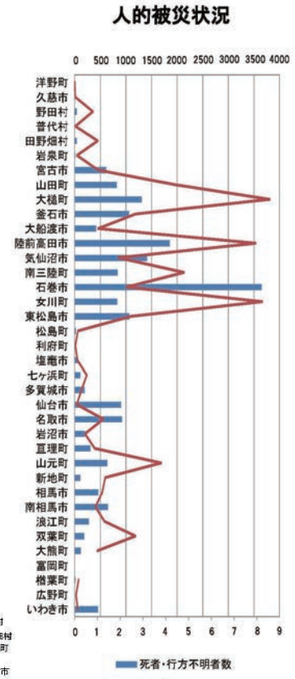
＜復興計画の振り返り＞

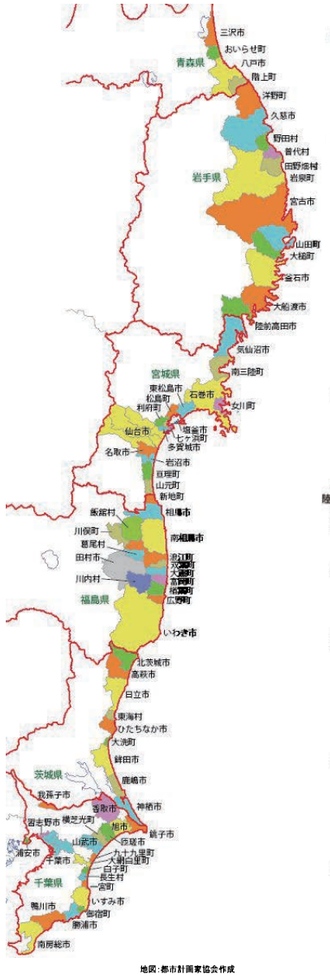
支援活動に当たり、客観状況の把握は不可欠であり、現地自治体目線での一覧表を作ることで、自分たちの活動を振り返ることに役立てたいと考えた。公表されているウェブ上の復興庁や各自治体の情報資料から、自治体ごとに集約して一覧表にまとめた。被災状況等は原発事故の影響でデータを探せない自治体もあり、復興計画等から読み取れる空間整備に関わる部分を抽出したが。各自治体によるバラツキがある。

復興力は被災と人間活動と時間の関数とのことで、被災の大きさは災害自体と人口集積、脆弱性の関数でありそれらへの対応によって、予防力を高めることもできるという。37自治体の被災状況は岩手県南部から宮城県北部で大きく、人口比率を取ってみると、少し違う様相を見せる。被災状況と復興計画の意思決定により、自治体による格差も生まれている。

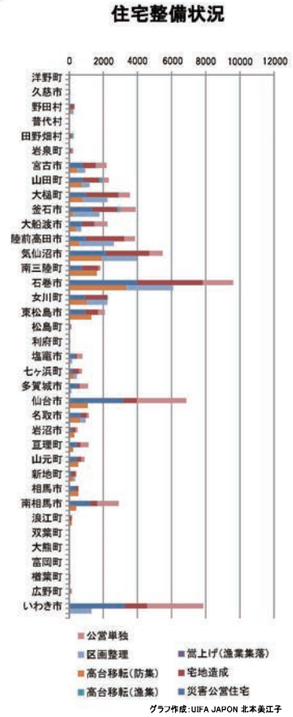
住宅整備は37自治体で総数48,334戸に及び、その内訳は災害公営住宅54.34%（面整備を伴わない単独33.67%）面整備は防災集団移転35.00%土地区画整理29.80%漁業集落防災強化1.49%である。進捗状況は、H25年度末で10%に満たず、2年後に70%近くなる。







地図：都市計画家協会作成



グラフ作成：UIFA JAPAN 北本美江子

■東北３県沿岸被災自治体復興計画等一覧

	自治体名	人口 上段：各HP 下段：国勢調査	被災状況 （各自治体HPより）	計画期間 各自治体復興計画等	防潮堤等 復興庁公共インフラ施策	嵩上げ 復興計画、パターン調査 復興事業計画等	高台移転 復興計画、パターン調査 住まいの復興工程表等	都市再生整備 復興計画、パターン調査 復興交付金事業等	住宅整備 住まいの復興工程表 H25.12末時点	その他特記事項 復興計画キャッチフレーズ等	経済規模 上段：被災額 下:復興交付金
1	岩手県九戸郡 洋野町 Hirono-cho	H26 18,302人 H22 17,913人	死亡・不明 0人 住宅全半壊 40棟	復旧期 ～H25年度 復興期 ～H28年度	八木港等5カ所 県に要請 12m	町事業 漁業集落防災機能強化事業			災害公営住宅 4戸 宅地造成 17戸	ウニの里、漁港復旧（県2，町6）、漁協6、JR八戸線 「海と高原の絆、未来へ　確かな復興」、道路網・橋梁	51億円 18億円
2	岩手県 久慈市 Kuji-shi	H26 37,127人 H22 36,872人	死亡・不明 6人 住宅全半壊 97棟	H23年度～H33年度 復旧、復興、飛躍期	12m→14m 滝口防波堤建設中	避難道路等	市事業 漁業集落防災機能強化事業		災害公営住宅 11戸 宅地造成 15戸	津波避難施設（タワー状） 再生可能エネルギーへの取組	311億円 67億円
3	岩手県九戸郡 野田村 Noda-mura	H26 4,515人 H22 4,632人	死亡 37人 住宅全半壊 445棟	H23年度～H27年度	12m→14m	漁業集落防災機能強化事業 15戸	防災集団移転促進事業 16戸	区画整理 136戸	災害公営住宅 101戸 宅地造成 178戸	3線堤、城内、南浜・米田 津波避難施設（タワー状）	66億円 122億円
4	岩手県下閉伊郡 普代村 Fudai-mura	H26 2,941人 H22 3,088人	不明 1人 住宅 0棟	H23年度～H30年度 復旧、再生、発展期	15.5m OK 15.5m水門一部損壊	漁港施設機能強化事業				漁業再生、舞茸放射能風評被害、観光施設再生 「あすへの一歩、青い海（水産業）の復興へ」	40億円 15億円
5	岩手県下閉伊郡 田野畑村 Tanohata-mura	H26 3,708人 H22 3,843人	死亡・不明 39人 住宅全半壊 247棟	H23年度～H27年度 緊急、短期、中期	6.8m→14.3m	島越駅周辺	村事業 漁業集落防災機能強化事業		災害公営住宅 63戸 宅地造成 53戸	被災４集落244世帯	281億円 233億円
6	岩手県下閉伊郡 岩泉町 Iwaizumi-cho	H26 10,398人 H22 10,804人	死亡 11人 住宅全半壊 187棟	H23年度～H31年度 復旧、再生、発展期	13.3m水門 14.7m	河川堤防（県）	町事業 漁業集落防災機能強化事業	都市防災総合推進事業 （津波避難ビル）	災害公営住宅 51戸 宅地造成 60戸	小中学校、こども園建設 2線堤（避難路・山付き堤防）	44億円 75億円
7	岩手県 宮古市 Miyako-shi	H26 57,003人 H22 59,430人	死亡・不明 611人 住宅全半壊 7,303棟	H23年度～H31年度 復旧、再生、発展期	防波堤復旧 田老→14.7m2線堤10m	漁港施設機能強化事業 都市再生区画整理事業（一部）	防災集団移転促進事業 446戸 漁業集落防災機能強化事業 32戸	区画整理 490戸 津波復興拠点整備事業	災害公営住宅 733戸 宅地造成 765戸	公園住宅建設 587戸 復興パターン調査20地区	2,457億円 720億円
8	岩手県下閉伊郡 山田町 Yamada-machi	H26 16,854人 H22 18,617人	死亡・不明 820人 住宅全半壊 2,964棟	H23年度～H32年度 復旧、再生、発展期	7m→9.7～12.8m	都市再生区画整理事業	防災集団移転促進事業 731戸 漁業集落防災機能強化事業 207戸	区画整理 462戸 津波復興拠点整備事業	災害公営住宅 831戸 宅地造成 935戸	2線堤の考え方：設定しない L2には高台移転と嵩上げ対応	964億円
9	岩手県上閉伊郡 大槌町 Otsuchi-cho	H26 12,673人 H22 15,276人	死亡・不明 1,307人 住宅全半壊 3,717棟	H26.3 改訂版 H23年度～H30年度	7m→14.5m	都市再生区画整理事業	防災集団移転促進事業 772戸 漁業集落防災機能強化事業 29戸	区画整理 1,476戸 津波復興拠点整備事業	災害公営住宅 980戸 宅地造成 1,944戸	東京大学海洋研究所（赤浜） 戦略復興会議座長：大方潤一郎　協働・連携・効率	786億円 923億円
10	岩手県 釜石市 Kamaishi-shi	H26 36,872人 H22 39,574人	死亡・不明 1,061人 住宅全半壊 3,352棟	H23年度～H32年度	湾口防波堤復旧 唐丹湾12m→14.5m	区画整理、津波拠点整備 漁業集落防災機能強化事業	防災集団移転促進事業 447戸 漁業集落防災機能強化事業 44戸	区画整理 1,532戸 津波復興拠点整備事業	災害公営住宅 1,414戸 宅地造成 1,495戸	復興パターン調査22地区、津波復興拠点2カ所 （職住隣：学校、東部：交流拠点・庁舎・駐車場等）	1,024億円
11	岩手県 大船渡市 Ofunato-shi	H26 38,871人 H22 40,737人	死亡・不明 419人 住宅全半壊 3,220棟	H23年度～H32年度 前期、中期、後期	湾口防波堤復旧 越喜来8m→14m	区画整理、津波拠点整備 漁業集落防災機能強化事業	防災集団移転促進事業 392戸 漁業集落防災機能強化事業 15戸	区画整理 300戸 津波復興拠点整備事業	災害公営住宅 790戸 宅地造成 707戸	災害危険区域指定（条例）、URと協力協定（区画整理と災害公営建設）、津波復興拠（駅前商業施設）	1,077億円 757億円
12	岩手県 陸前高田 Rikuzentakata-shi	H26 20,466人 H22 23,300人	死亡・不明 1,852人 住宅全半壊 3,256棟	H23年度～H30年度 基盤整備期、展開期	5.5m→12.5m （外洋、大野湾12.8m）	区画整理事業	防災集団移転促進事業 497戸	区画整理 2,009戸 津波復興拠点整備事業	災害公営住宅 1,000戸 宅地造成 2,236戸	海と緑と大潮との共生・高浜新都市の創造、危険区域 復興整備計画ー24.3から変更11回（H26.3までに）	1,247億円 816億円
13	宮城県 気仙沼市 Kesennuma-shi	H26 67,915人 H22 73,489人	死亡・不明 1,409人 家屋全半壊 18,737棟	H23年度～H32年度 ～H27集中復興期間	5.0～11.8m	区画整理事業	防災集団移転促進事業 1,905戸	区画整理 2,085戸	災害公営住宅 2,194戸 宅地造成 2,624戸	チッタスロー、地籍調査、大島架橋、ブランド化 漁港38の拠点化とナンバリング、フィールドミュージアム	2,299億円
14	宮城県本吉郡 南三陸町 Minamisanriku-cho	H26 14,505人 H22 17,429人	死亡・不明 836人 住宅全半壊 3,321棟	H23年度～H32年度 復旧、復興、発展期	本吉湾9.8m 志津川湾8.7m		防災集団移転促進事業 29地区 943戸	区画整理（1、農用地）	災害公営住宅 770戸 宅地造成 943戸	住まいは高台に、復興パターン調査18地区 避難塔（避難ビル）整備、公共施設再配置、避難サイン	952億円
15	宮城県 石巻市 Ishinomaki-shi	H26 150,303人 H22 160,826人	死亡・不明 3,647人 建物全半壊 33,072棟	H23年度～H32年度 復旧、再生、発展期	河川堤防河口部分7.2m 計画堤防高6.0～9.7m	高盛土道路で多重防御	防災集団移転促進事業 3,353戸 区画整理 2,681戸	市街地再開発 3地区 優良賃貸	災害公営住宅 4,000戸 宅地造成 3,835戸	減災避難ビル・タワー、計画時災害公営3,000戸 水深14m津波整備、ポートセールス展開、半島部61浜	GDP04割減 2,908億円
16	宮城県牡鹿郡 女川町 Onagawa-cho	H26 7,335人 H22 10,051人	死亡・不明 827人 住宅全半壊 3,071棟	H23年度～H30年度 復旧、基盤、本格期	6.4～6.9m 万石浦2.6m	地盤沈下部分、L1まで、区画整理 津波復興拠点整備事業	防災集団移転促進事業 1,031戸 漁業集落防災機能強化事業 3戸	津波復興拠点整備事業 区画整理 1,201戸	災害公営住宅 947戸 宅地造成 1,289戸	役場機能回復、高台集約、石巻へ複数通路、ヘリポート メモリアル公園、東北大学海洋生物研究センター	785億円 976億円
17	宮城県 東松島市 Higashimatsushima-shi	H26 40,193人 H22 42,903人	死亡・不明 1,063人 住宅等全半壊 8,512棟	H23年度～H32年度 復旧・復興、発展期	7.2m（松島湾約4.3m）	3線堤、道路、地盤沈下部分	防災集団移転促進事業 1,288戸	区画整理 2地区	災害公営住宅 969戸 宅地造成 717戸	PDCAサイクル、市民委員会、リーディングプロジェクト	669億円 1,237億円
18	宮城県宮城郡 松島町 Matsushima-machi	H26 15,040人 H22 15,085人	死亡・不明 21人 家屋等全半壊 570戸	H23年度～H27年度 復旧、復興、創造期	2.1～3.3m	漁業集落防災機能強化事業 14戸			災害公営住宅 52戸 宅地造成 14戸	民間賃貸借上入居57世帯、今回の震災の検証 広域連携による貢献、歩行避難が原則、避難路整備	87億円 160億円
19	宮城県宮城郡 利府町 Rifu-cho	H26 36,103人 H22 33,994人	死亡・不明 11人 住宅全半壊 157戸	H23年度～H28年度 復旧・再生、発展期		地盤沈下部分（漁港）		漁業集落防災機能強化事業（避難所等）	災害公営住宅 25戸	パートナーシップによる協働、PDCAサイクル、 地震による住宅被害あり公営住宅は投票近く	59億円
20	宮城県 塩竈市 Shiogama-shi	H26 56,207人 H22 56,490人	死亡・不明 65人 住宅全半壊 2,586棟	概ね10年 前期、後期	4.3m	区画整理 漁業集落防災機能強化事業101戸	防災集団移転促進事業 25戸	津波復興拠点整備事業 区画整理 117戸	災害公営住宅 380戸 宅地造成 162戸	島部の被害甚大、本土22%被災市域狭く、選択地少 島部高齢化率53%、松島特別名勝	1,216億円 401億円
21	宮城県宮城郡 七ヶ浜町 Shichigahama-machi	H26 19,573人 H22 20,416人	死亡・不明 103人 住宅全半壊 916棟	H23年度～H32年度 復旧、再生、発展期	4.3～6.8m	2線堤：県道、防災林・緑地 区画整理	防災集団移転促進事業 273戸	区画整理 171戸	災害公営住宅 212戸 宅地造成 382戸	長期計画と連動連動、「うみ・ひと・まち　七ヶ浜」 仙台火力発電所	343億円
22	宮城県 多賀城市 Tagajo-shi	H26 62,048人 H22 63,060人	死亡・不明 189人 住宅全半壊 3,380棟	H23年度～H32年度 復旧、再生、発展期	4.0m 多重防御 防潮堤4.5m	県道、防潮林		区画整理 75戸	災害公営住宅 532戸 宅地造成 75戸	「未来を育むまち 史都 多賀城～支えあい・学びあい・育ちあい～」仙台塩電浸後背工場地帯、現地再建基本	65億円 284億円
23	宮城県 仙台市 Sendai-shi	H26 1,066,609人 H22 1,045,986人	死亡・不明 904人 住宅全半壊 55,533棟	H23年度～H27年度 国の復興集中期間	7.2m	県道塩竈亘理線6m嵩上げ 海岸防災林	防災集団移転促進事業 1,083戸 既存区画整理地内へ	農と食のフロンティア	災害公営住宅 3,180戸 宅地造成 784戸	津波被害は8,110世帯、地震被害多、民間借上8,434戸 予測浸水深2m以上地区移転、公営住宅公募買取	1兆3684億円 1,911億円
24	宮城県 名取市 Natori-shi	H26 75,020人 H22 73,134人	死亡・不明 924人 住宅全半壊 3,020棟	H23年度～H29年度 再生・展開・発展期	7.2m 貞山運河堤防6m	閖上運河西地区5m嵩上げ	防災集団移転促進事業 730戸	区画整理 295戸	災害公営住宅 752戸 宅地造成 373戸	「元気創造 これからも名取」閖上区画整理、下増田集団 移転の力創、仙台空港による集積・連携、市民100人会議	1,017億円 591億円
25	宮城県 岩沼市 Iwanuma-shi	H26 43,656人 H22 44,187人	死亡・不明 195人 住宅全半壊 2,028棟	H23年度～H29年度 復旧、再生、発展期	7.2m	貞山堀護岸嵩上げ 市道空港三軒茶屋線沿道嵩上げ	防災集団移転促進事業 365戸		災害公営住宅 210戸 宅地造成 187戸	千年希望の丘、居久根活用、ベアリング支援 グランドデザイン8月、マスタープラン9月	700億円
26	宮城県亘理郡 亘理町 Watari-cho	H26 33,931人 H22 34,845人	死亡・不明 306人 住宅被害 5,600棟	H23年度～H32年度 復旧、再生、発展期	7.2m 阿武隈川河川堤防7.2m	鳥の海海盛土公園 道路嵩上げ2線堤	防災集団移転促進事業 227戸		災害公営住宅 497戸 宅地造成 200戸	「安全・安心・元気のあるまち　亘理」、いちご東北一 鳥の海マリンスポーツ、亘理漁業、工業団地産業誘致	3,353億円 706億円
27	宮城県亘理郡 山元町 Yamamoto-cho	H26 13,140人 H22 16,704人	死亡・不明 635人 家屋全半壊 2,751棟	H23年度～H30年度 復旧、再生、発展期	7.2m	県道相馬亘理線嵩上げ	防災集団移転促進事業 531戸	津波復興拠点整備事業 2カ所	災害公営住宅 487戸 宅地造成 223戸	人口減予測下方修正、新山下駅・新坂元駅市街地整備 常磐線丘陵側への移動JRと調整、水田8割水没	772億円
28	福島県相馬郡 新地町 Shinchi-machi	H26 8,224人 H22 8,224人	死亡・不明 110人 住宅全半壊 598棟	復興構想10年後目標 基本計画5年期事業	7.2m	県道相馬亘理線嵩上げ2線堤 防災緑地、石積10m、区画整理	防災集団移転促進事業 224戸	区画整理 110戸 津波復興拠点整備事業	災害公営住宅 133戸 宅地造成 237戸	「やっぱり新地がいいね」「自然輝き笑顔あふれる町再建」 二線堤、建築制限による職住分離、新地駅まちなか形成	332億円
29	福島県 相馬市 Soma-shi	H26 35,926人 H22 37,817人	死亡・不明 455人 住宅被害 5,823棟	H23年度～H27年度 Ver1→H26Ver2	7.2m	防災緑地整備、 大洲・中州復旧（盛土＋杭地化）	防災集団移転促進事業 526戸		災害公営住宅 398戸 宅地造成 131戸	明日の相馬っぱ人づくり、放射能、スポーツ観光 公共建築和風デザインコード	539億円
30	福島県 南相馬市 Minamisoma-shi	H26 63,679人 H22 70,878人	死亡・不明 646人 住宅全半壊 1,359棟	H23年度～H32年度 復帰・復旧、復興期	7.2m	2線堤県道等嵩上げ、防災林	防災集団移転促進事業 395戸	災害公営住宅(県)900戸	災害公営住宅 1,250戸 宅地造成 395戸	「心ひとつに世界に誇る南相馬の再興を」EDEN計画 緊急の対応（放射能汚染対策、応急の生活復旧）	529億円
31	福島県双葉郡 浪江町 Namie-machi	H26 19,275人 H22 20,905人	死亡・不明 273人 住宅全半壊 658棟	H23年度～H32年度 緊急復旧、実現、復興期		海岸防災林復旧整備	防災集団移転促進事業 129戸		宅地造成 129戸	町外コミュニティ、ほぼ全町避難、H26復興まちづくり計画 一人ひとりの暮らしの再建、どこに住んでいても浪江町民	53億円
32	福島県双葉郡 双葉町 Futaba-machi	H26 6,418人 H22 6,932人	死亡・不明 185人	短期～H29区域見直し 中期、長期：避難解除		海岸防災林再生				7000人の復興会議、選択肢としての仮の町、きづな拠点	
33	福島県双葉郡 大熊町 Okuma-machi	H26 10,896人 H22 11,515人	死亡・不明 115人 家屋津波全壊 48棟	H24第一次復興計画 H26復興まちづくりビジョン		海岸防災林再生				会津若松～H27. 大川原に拠点準備. いわき市移転準備 いわき市周辺拠点設置ー29～33. 町民と若手職員で作成	1億円
34	福島県双葉郡 富岡町 Tomioka-machi	H22 16,001人		H24年度～H32年度 復旧期、復興期	8.7m	海岸防災林再生				アドバイザー今井晴彦(サンプランナーズ)、 サテライト（郡山、いわき）計画、双葉郡での連携	1億円
35	福島県双葉郡 楢葉町 Naraha-machi	H26. 7,500人 H22 7,700人	死亡 13人	H23年度～H32年度 準備1.2. 帰町. 復興期	8.7m	海岸防災林再生 浜街道2線堤整備	防災集団移転促進事業 52戸		災害公営住宅 37戸 宅地造成 15戸	第二次復興計画、Jヴィレッジの再生、まちづくり会社 放射線対策課、生活支援課、復興推進課新設	25億円
36	福島県双葉郡 広野町 Hirono-machi	H26 5,151人 H22 5,418人	死亡・不明 3人 流出建物等 57棟	H24年度～H33年度 復旧期、前・後期復興期	8.7m	県道嵩上げ（高盛土構造） 防災緑地	現位置での復興		災害公営住宅 74戸	「ふるさと広野町の復興」第二次復興計画ー26.3 1,300人帰還、2,600人の作業員帰宅住	57億円
37	福島県 いわき市 Iwaki-shi	H26 325,893人 H22 342,249人	死亡・不明 455人 建物全半壊 15,197棟	H23年度～H32年度 復旧期. 復興期. 発展期	7.2～8.7m	海岸防災林再生	防災集団移転促進事業 46戸	区画整理 1,252戸	災害公営住宅 3,273戸 宅地造成 1,298戸	復興ビジョン、復旧計画、第一～三次復興事業計画 被災地自治体との連携強化プロジェクト、パターン調査17	370億円 1,049億円

出典：H26年4月末時点の復興庁HPと各自治体HP。人口はH22年の国勢調査及びH26年は3月末時点。住宅整備の住まいの復興工程表は、H25年12月末時点。

UIFA JAPON 北本美江子作成